

静岡どぼくらぶによる 担い手確保・育成の取り組みについて

静岡県 交通基盤部 管理局

政策監

やまだ

山田

おかだ

岡田

ひろこ

紘子

ゆみ

結美

建設支援局 建設業課

1. はじめに

“県民の命を守り”“県民の未来を創る”社会インフラは、その果たすべき役割がますます重要となっている。

土木は、新しい道をつくり、橋をかけ、いまある社会インフラを守り、万一のことがあればすぐに駆けつけ復旧させる、地域に欠かせないものである。将来に向けて県土づくりを担う若者の確保が大切である。

一方で、静岡県も全国と同様に、建設産業就労者の50歳以上が約5割を占める中、30歳未満の若手就労者は約1割と将来の担い手が不足している（平成27年度国勢調査）。

土木の業界に若者を呼ぶには、県だけが行動しても、建設産業だけが声を上げて難しい。土木に関連するすべての組織、人々、県民が一丸となって、土木の重要性、業界の魅力を再認識し、発信することが必要だと考え、平成29年4月に多様な主体が取り組みに参加し、連携して情報発信することができるプラットフォーム「静岡どぼくらぶ」を立ち上げた。

2. 静岡どぼくらぶの取り組み

(1) ロゴ、動画、オリジナルソングの作成

県では、静岡県のシンボル富士山を型取ったロゴマーク、現場で働く担い手と県職員が参加して作成した動画4本、オリジナルソングにより、建設産業のイメージアップ活動をブランディングするとともに、これらのロゴ等は趣旨に賛同する方は誰でも使用可能とし、民間の取り組みとの連携が広がるよう、業界・個人が容易に参加できるような仕組みを構築した（図－1、写真－1）。

(2) 官民連携の事例

今日まで、多くの官民連携の取り組みが実現している。

地元建設コンサルタント会社が、静岡どぼくらぶソングを使用して、仕事ややりがいを伝える企業PR動画を作成し、テレビCMとして放映され



図－1 ロゴマーク

土木の「仲間（CLUB）」が、土木を「好き（LOVE）」になる、がコンセプト。



※静岡どぼくらぶ動画は、
YouTube で視聴可能

写真－１ 静岡どぼくらぶ関連動画

- (左上) 静岡どぼくらぶ編：社会に貢献する土木の現場を紹介
- (右上) 静岡どぼくらぶソング編：オリジナルソングにのせて現場で働く人をクローズアップ
- (左下) 女性とドボク編：女性の活躍とやりがいを伝える
- (右下) ICT で想像と創造を明日へ編：土木の現場革新と生産性向上を伝える

た。この動画には、社員とその家族が出演している。業界からは、「仕事に誇りとやりがいを感じた」との反応があった(写真－２)。

県内の建設業界でも、「ロゴ」を名刺やヘルメット、建設重機へ使用している。建通新聞社への賛同広告企業からは、「静岡の土木に愛と勇気を。『静岡どぼくらぶ』を応援します！！」とい

う土木への熱い想いを現場からいただいている(写真－３)。

また、８月の県民の日、１１月の土木の日に合わせて、建設業界と合同で多様なイベントを集中開催し、各地で多くの方々に土木に親しんでいただいた(写真－４)。



写真－２ どぼくらぶと連携した企業 PR



写真－３ 「ロゴ」を建設重機等へ使用



写真－４ １１月の土木の日ポスターと見学会の様子

建設分野だけでなく、異分野での連携も進め、土木を身近に感じてもらえるよう、PRを行った。

カラオケ全国チェーン店が、11月の土木の日に「どぼくらぶソング」の全国配信をスタートし、新聞5紙で大々的に掲載、テレビで特集報道された（写真－5）。



写真－5 カラオケ全国配信

下田市観光協会が配信する観光ラップCMシリーズに職員が参加。土木の仕事をラップに併せてPRし、地元ローカルテレビで、CMとしても放送された（写真－6）。



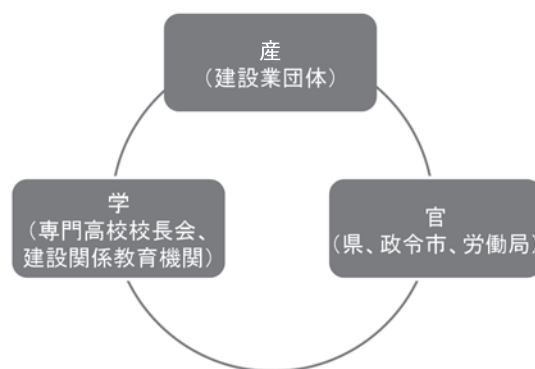
写真－6 どぼくらぶ RAPS

県民からは「土木の魅力が伝わる」、「土木の重要性を感じた」との感想をいただき、「静岡どぼくらぶ」の認知度と共鳴共感の輪が大きく広がり、建設業界の意識改革が進むとともに、イメージ改善、土木のやりがい県民へ伝わっている。

3. 「静岡どぼくらぶ」講座

(1) 担い手確保・育成対策支援コンソーシアム

県では、平成27年5月、産・学・官の連携により、「静岡県建設産業担い手確保・育成対策支援コンソーシアム」を設置し、情報交換や意見交換、本県の取り組みの検証を行うとともに、個々の取り組みにおいてコンソーシアム構成員間の連携を図っている（図－2）。



図－2 コンソーシアムの構成

コンソーシアム設立後の意見交換や検証等により、幼少期からの建設産業に対する興味の醸成機会不足、生徒やその保護者、教員の建設産業への理解不足など、様々な課題が明確化した。そこで、課題に挙げられた各ターゲットに応じて、建設産業の理解を深めるための個々の取り組みを戦略的に実施している。

平成30年度からは、これらの取り組みを「『静岡どぼくらぶ』講座」として名称を統一し、効果的にPRするとともに、様々な機関との連携により内容の充実を図り、参加者の記憶に残る機会となるよう実施している。

具体的な取り組み例は、各課題に対応し、ターゲットを絞った“3本の矢”を柱としている。

1の矢：幼少期からの建設産業への興味の醸成を図る、小中学校等の若年層を対象として実施する出前講座、親子インフラツーリズム

2の矢：進路選択を控えた高校生に対し、理解を促進する建設現場体感見学会や出前講座、インフラツーリズム

3の矢：教員の情報不足を解消する、高校教員を対象とした勉強会

(2) 幼少期からの興味醸成、保護者への理解促進

主に小・中学生を対象として、幼少期からの興味醸成を図るため、建設産業の仕事を伝える出前講座を実施している。

出前講座は、教育委員会と連携し県内の学校に協力を呼びかけるとともに、教育機関に配布される広報誌等を通じて教育関係者に周知し、各学校や団体からの依頼を受けて実施している。授業時間1時間で、県の技術職員等が身近な工事現場の紹介や建設産業の役割や業務などを動画や写真等により分かりやすく紹介し、参加者や教員からは好評をいただいている。さらに、コンソーシアムの構成員である建設業協会の協力により、地元企業から講師を派遣し、建設現場において活用されるドローン操作のデモンストレーションなどを実施した（写真－7）。



写真－7 ドローン操作を取り入れた出前講座

また、幼少期からの職業観の醸成において、保護者の理解が重要となることから、小学生と保護者が一緒に参加できる「親子インフラツーリズム」を開催している。

親子で参加しやすい夏休み、冬休みに各1回公募し、普段、見るできない工事の現場や、

インフラ施設の見学を通して、楽しみながら建設産業の役割と仕事を学べる機会を提供している。

さらに、観光施設や道路整備などを見学することにより、県内の観光を支える建設産業の役割も併せて伝える機会としている。

平成30年12月に開催した際には、オリンピック会場のアクセス道路として整備が進められている伊豆中央道江間交差点の立体化工事や、国土交通省に協力いただき狩野川放水路を見学し、交通、観光を支えるインフラ整備や災害から地域を守るインフラ施設の役割を伝えた（写真－8）。



写真－8 親子インフラツーリズム

参加した小学生からは、「色々な人の思いで造られていることを知った」、保護者からは「土木の仕事を見学できたのと同時に、静岡の魅力をたくさん知ることができた」との感想をいただいた。将来につながる種まきの取り組みとして、今後も継続的に実施していく。

(3) 高校生を対象にした建設産業への理解促進

県内高校生に対しては、最新の土木技術や工法等を現場体感を通じ、建設産業への理解を促進し、就職や進学時に建設産業が進路の選択肢となるよう「建設現場体感見学会」を開催している。平成27年度から、専門高校を中心に22回開催している。

見学会では施設の構造や工法などに多くの質問が挙がり、現場を担当する職員や現場監督から施

工に際しての工夫ややりがい等の説明を受けた。参加した高校生からは、「授業で習うことよりも、実際の現場はとても迫力があつた」、「今まで以上に建設に興味を深めることができた」等の感想をいただくなど、授業で学んだ知識を現場の施工と結びつけ、建設業で働く具体的なイメージを持ってもらう機会になった。

普通高校は、カリキュラム上、授業の一環として実施することが難しいことから、建設企業の経営者や若手技術者を講師として招き、放課後等の短時間に建設産業への就職や仕事の魅力を紹介する出前講座を実施している。

平成 29 年度から「高校生インフラツーリズム」を公募により夏休みに実施し、普通高校の生徒を含め、現場見学の機会を提供している。

地元建設企業と連携により、建設企業で働く先輩との交流の時間を用意し、参加者からは、「何らかの形で土木に関わる仕事に就くことも進路の一つだと思った」、「住んでいる町のインフラ整備、維持・管理に携わりたい」という感想をいただき、建設産業への就職を考えるきっかけになったと思われる。

(4) 教員の理解促進

県内高校の主に就職（進路）指導を担当する教員に対し、生徒からの進路・就職相談に反映してもらうため、建設企業における仕事内容の理解促進、建設産業の現状及び就職後の資格取得等のスキルアップを説明する「建設産業研修会」を平成

27 年度から実施している。

当初の対象は、専門高校教員のみであったが、普通高校教員も加えて、これまで計 7 回開催し、58 名の教員が参加した。平成 30 年度は、県内建設企業の経営者や現場の若手技術者から、就業環境や求められる人材等の説明を受けるとともに、3D ゴーグルを使用した ICT 技術の体験実習を行う等、建設産業の現状と将来について理解を深めていただいた。

4. おわりに

「静岡どぼくらぶ」講座として、建設産業への理解促進の取り組みを統一的に PR するに当たり、今年度は取り組みの初年度であったため、県庁を中心に試行してきたが、来年度は、実施方法のマニュアル化により、県出先機関で既に実施している事業説明に、建設産業の魅力を伝える担い手確保としての取り組みをプラスし「静岡どぼくらぶ」講座に取り込むなど、拡大・推進していく方針である。

今後も、建設産業全体の発展を図るため、土木のイメージアップ活動に加えて、ICT などの新技術の活用による生産性の向上、建設工事の平準化による時間外勤務縮減や週休 2 日の確保などの働き方改革、女性も安心して働ける環境づくりなどにより、好循環を実現させ、現場を通してつながる「どぼくらぶ」として、将来の担い手確保・育成に向け、官民が連携して取り組んでいきたい。